

現代中国語辞書に潜む性差別

—第三人称代名詞“他”と“她”の例文分析から—

任 利

Sexism hid in a Modern Chinese Dictionary:

Analyses of the illustrative sentences used with male and female third personal pronouns

Li Ren

The purpose of this study is to reveal the existence of sexism hidden in the illustrative sentences in a modern Chinese dictionary. By analyzing the usage of male and female third personal pronouns appearing in the illustrative sentences, we found that a man and a woman tended to be depicted differently in stereotypical ways. Male third personal pronouns were used more frequently than female ones in the dictionary. Women were described negatively in the example sentences more often than men. In some examples, women were evaluated positively but only in a narrow range of criteria, such as in physical appearance or personality.

キーワード：性差別 中国語 辞書 第三人称 男性像 女性像

1. はじめに

現代中国語においては、特に男女による言語使用上の差異が見られないと従来から指摘されてきた。例えば、「我马上就來。(わたしはすぐ来る)」という中国語の文からは話者の性別は推測できない。これは、日本語のように話者の性別が現れやすい言語と大きな違いである。話者の性別は第一人称代名詞に端的に現れる日本語では「僕」、「俺」は男性が用い、女性は「わたし」を使うのが普通である。一方、中国語の第一人称「我」には男女差はない。英語やフランス語など欧米の言語でも、第一人称は男女とも「I」、「je」であり、むしろ日本語の方に特色があるというべきである。

任(2008)は、中国語に特有な文字表記形式である漢字に潜むジェンダーについて、「女偏の漢字」、「男女」という語順、「中国人男性と女性の名前の漢字使用」などの面から考察を行った。その結果、現代中国語の漢字使用には固有のジェンダー意識が存在していることが明らかになった。それは古くから男性中心であった中国社会の実態を反映しているものであり、現代中国社会において今も言語使用の中に性差別が存在することをあぶり出したものであった。この研究により、表面的には目立つ男女の差異が存在しないと考えられてきた現代中国語の言語使用実態の中にどのようなジェンダー意識や性差別が見られるのかをさらに追及していく必要性が提起された。

そこで本稿では、任(2008)の研究をさらに押し進め、第三人称“他”(彼)と“她”(彼女)の辞書での用例文を通して、現代中国語における性差別について考察する。具体的には、男性代名詞“他”と女性代名詞“她”が辞書の例文において、(1) どのような使用頻度で用いられているかを調べる。また、(2) 男女それぞれの人称代名詞が肯定的な文・否定的な文のどちらに多く用いられているか、さらに、(3) 男女の描き方に差が

見られるかどうかを調べることにする。

2. “他”と“她”という漢字

現代中国語では、第一人称および第二人称には性による違いがない。第一人称は男女ともに「我」であり、第二人称も男女ともに「你」である。一方、第三人称では、男性には人偏の“他”が、女性には女偏の“她”が用いられる。これは、英語における「I」、「you」、「he/she」とピッタリ対応している。ただし、英語では音声面でもheとsheが区別できるが、中国語では“他” tāと“她” tāは同音である。また、英語では第三人称が複数形ではtheyとなり、男女の区別がなくなる。これに対し、中国語では複数形でも“他们”（彼ら）と“她们”（彼女ら）となり、男女差が残される。ただし、複数形“他们” tāmen と“她们” tāmenも同音であるため、話し言葉では、単複ともに第三人称の男女の区別ができない。話の前後の流れや話者同士の確認で指した第三人称の性別を区別するしかない。

歴史的には、中国語の第三人称を表記する漢字は本来“他”という漢字のみであった。そのため、“他”が自分と相手以外の第三者である男性、女性および一切の事物について用いられていた。前山（2004）によると、“她”という漢字は中国の新文化運動であった「五四運動」（1919年）期に言語学者劉半農が考え出した新字である。「五四運動」期間および1920年代後半まで“他”、“她”、“伊”と三通りの女性三人称が使われていたが、1930年代には“她”が広く使われるようになり、その後こうした傾向が一般化していく（前山2004:145）。即ち、“她”という漢字は、近代以降第三人称の男女を区別するため、“他”の人偏を女偏にし、新しく作られた漢字であるという経緯がある。

3. 調査対象および方法

音声の面においては、単数形“他” tā “她” tāも複数形“他们” tāmen “她们” tāmenも同音である。しかし、書き言葉では、「人偏」と「女偏」という偏で指した第三人称の男女の区別ができる。そこで、本稿では第三人称“他”と“她”を用いた書き言葉に注目し、書き言葉の資料である辞書の例文の中にどのような男性像と女性像が見られるのかを分析することとした。

書き言葉の資料として辞書を選んだ理由としては、一般的には、辞書の中に載せた例文は、見出し語及び見出し語からできた連語や慣用語の典型的な用法を示すために載せたものである。こういう意味から、辞書に載せられた例文は、読者に標準的な語釈・語法を示す一方で、社会一般の規範的な意識も反映されていると考えられるからである。

調査対象とした辞書は、《现代汉语词典》(第5版)である。これは中国社会科学院語言研究所詞典編輯室、即ち、中国の学术界を代表する国家アカデミーの言語部門が編纂した辞書である。全書は65,000語が収録されている。近年の言語使用の変化や最新の研究成果を反映している最も権威のある現代中国語の中型詞典である。この辞書の大きな特徴として特筆すべきことは、「現代中国語」にこだわり、古典作品からの例文を一切収録せずに、用例文はすべて辞書編集者の創作による現代文としたことである。こうした意味で用例には編集者側が想定する「現代の中国語使用者をモデルとした中国社会一般の言語意識」が反映されているはずである。

調査方法として、当該辞書の本文の1,830頁分の中から、収録された語彙の用例の部分に、第三人称代名詞の“他”と“她”を用いた例文をすべてカード化し、例文カードに基づいて分析する方法をとった。参考のため、複数形の“他们”(彼ら)、“他俩”(彼二人)、“他们俩”(彼ら

二人) および“她们”(彼女ら)、“她俩”(彼女二人)、“她们俩”(彼女ら二人)を用いた例文数も同時に調査した。

例文カードは4,109枚となった。この例文カードを用いて、(1) 当該人称代名詞がどのような使用頻度で用いられているか、(2) 男女の人称代名詞が肯定的な文・否定的な文のどちらに多く用いられているか、(3) 男女の描き方に差が見られるかどうかについて分析を行なった。

4. 分析結果

4.1 使用頻度

当該人称代名詞が用いられた用例文数は、以下の表1の通りとなった。

表1. 《现代汉语词典》における“他”と“她”を用いた例文の異なり数

	用例文数		用例文数
他(彼)	3,531例	她(彼女)	330例
他们(彼ら)	180例	她们(彼女ら)	5例
他俩(彼二人)	35例	她俩(彼女二人)	0例
他们俩(彼ら二人)	26例	她们俩(彼女ら二人)	2例

まず、数の上では、“他”(彼)を用いた例文数は3,531例で、“她”(彼女)を用いた例文数330例の10倍以上であった。量的には、かなりの開きが見られた。また、複数形“他们”(彼ら)を用いた例文数は180例で、“她们”(彼女ら)を用いた例文数はわずか5例であった。さらに、“他俩”(彼二人)を用いた例文は35例、“他们俩”(彼ら二人)を用いたのは26例あったが、“她们俩”(彼女ら二人)はわずか2例で、“她俩”(彼女二人)は0例であった。

“她”という漢字の由来を考えれば、“他”に対して“她”は有標であり、“他”には、男女を問わず、“他们”には男女を含む複数を表記する代表

性を有する側面もある。しかし、こうした歴史的な経緯があっても“她”という漢字が定着してから半世紀以上が過ぎた現在、現代語として、すでに“他”は第三人称の男性に、“她”は第三人称の女性に用いるという使い分けがあるのだから、現代中国語の言語使用実態を反映すべき辞書には、配置された用例にも極端な偏りがないように編集者側が注意すべきである。そうした意味で、この調査結果は編集者側が暗黙のうちに想定している中国社会一般の言語意識が反映されていると思われる。

4.2 例文に描かれる人物像の違い

質の面で、例文の中にはどのような「男性像」および「女性像」が見られるのか、第三人称の“他”を用いた例文3,531例、および“她”を用いた例文330例を、中国語母語話者6名（男性3名、女性3名）に読んでもらい、「高く評価された積極的な人物像」、「低く評価された消極的な人物像」、および「その他」の三つパターンに分けてもらった。その結果は以下の表2となった。

表2. 《現代汉语词典》に“他”と“她”を用いた例文に見られる人物像

	積極的な人物像	消極的な人物像	その他	計
“他”を用いた 例文の男性像	1,028例 (29.1%)	322例 (9.1%)	2,181例 (61.8%)	3,531例 (100%)
“她”を用いた 例文の女性像	69例 (20.9%)	163例 (49.4%)	98例 (29.7%)	330例 (100%)

表2を見て分かるように、“他”を用いた例文には、「高く評価された積極的な人物像」が1,028例で全体の29.1%を占め、「低く評価された消極的な人物像」(322例：全体の9.1%)、「その他」(2,181例：全体の61.8%)となっている。つまり、“他”を用いた例文の半分以上を占める「その他」を除くと、「積極的な男性像」が「消極的な男性像」の3倍以上と

圧倒的に多かった。

一方、“她”を用いた例文には、「積極的な人物像」が69例と全体の20.9%を占める一方、「消極的な人物像」が163例で全体の49.4%を占めていた。「その他」は98例で全体の29.7%であった。つまり、“她”を用いた例文では、ほぼ半分が消極的な女性像を描いたものであった。

4.3 積極的／消極的な男性像の基準観点

以下では、“他”を用いた例文に、「高く評価された積極的な男性像」の1,028例について、どんなものについて言及しているのか見てみよう。(表3を参照)

表3. 高く評価された積極的な男性像の“他”の用例の意味類別

行為／事績	仕事	知能／成績	技能	性格	趣味	計
337例	318例	195例	105例	38例	35例	1,028例

“他”の肯定的な用例の1,028例中、以下の(1)、(2)のように行為や事績に言及するものが337例、(3)のように仕事に言及するのは318例、(4)のように知能や成績に言及するのは195例であった。「技能」のうち(5)のように、書画に言及するものが多い。そのほか、「性格」、「趣味」に言及する例もあるが少量であった。

以下の例文では、下線の語は見出し語、()の中は筆者による日本語訳である。

- (1) 他的行为多么高尚啊！(彼の行為はなんと高尚であろう！)
- (2) 在这些英雄人物当中，他的事迹最感人。(これら英雄の中で、彼の事績が最も人を感動させる。)

- (3) 他在厂里多次受到表扬。(彼は工場では何度も表彰された。)
- (4) 他的博闻强识, 令人拜服。(彼の博学に敬服させられた。)
- (5) 他的字, 笔法圆润秀美。(彼の字は筆法が豊潤で綺麗だ。)

こうした用例から、“他”はみんなに好かれる人徳の高くて優秀な人物像である。

次に、「低く評価された消極的な男性像」の322例について、どんなものについて言及しているのか見てみよう。(表4を参照)

表4. 低く評価された消極的な男性像の“他”の用例の意味類別

行為／態度	仕事	知能／成績	性格	計
209例	89例	17例	7例	322例

下記(6)の“跋扈”(横暴に振る舞う)、(7)の“扒拉”(仕事でクビにされる)、(8)の“成绩太差”(成績が非常に悪い)などのような行動、仕事および成績の面において非常に悪いことに言及するものが多い。そのほか、(9)の“暴”(かっとなる)のような性格が悪い例もある。

- (6) 他做事一向非常跋扈。(彼は平素から横暴に振る舞う。)
- (7) 他的厂长职务叫上头给扒拉了。(彼の工場長の職務は上司に取消された。)
- (8) 他的学习成绩太差, 毕不了业。(彼の成績が非常に悪くて、卒業できない。)
- (9) 他的脾气很暴。(彼はすぐかっとなる性格である。)

しかし、表3と表4を比較してみるとわかるように、「肯定的な男性像」

も「否定的な男性像」も、「行動」、「仕事」、「知能／成績」といった観点に偏っていることも明らかとなった。

4.4 積極的／消極的な女性像の基準観点

次に、“她”を用いた例文の中で「高く評価された積極的な女性像」の67例について、どんな基準観点について言及しているのか見てみよう。(表5を参照)

表5. 高く評価された積極的な女性像の“她”の用例の意味類別

容姿／声	性格	仕事	母性	学習	技能	体育	その他	計
24例	20例	9例	4例	3例	3例	2例	2例	67例

“她”の肯定的な用例の67例中、以下の(10)、(11)のように「容姿」や(12)、(13)のように「声」に言及するものが24例、(14)、(15)のように「性格」に言及するのは20例、(16)のように仕事に言及するのは9例であった。ただし、この仕事のうち(17)のように女優としての仕事に言及するものが6例と大半を占める。そのほか、「母性」、「学習」、「技能」、「体育」に言及する例もあるがわずかであった。

- (10) 她长得十分美貌。(彼女は非常に美しい。)
- (11) 她穿上这身衣服,显得越发标致了。(彼女はこの服を着ると、益々美しく見える。)
- (12) 她的发音很标准。(彼女の発音はとても標準的だ。)
- (13) 她的普通话说得真地道。(彼女の標準語は本当に生粋だ。)
- (14) 她有一副热心肠。(彼女は非常に親切だ。)
- (15) 她的脾气很好,从不急躁。(彼女の性格がとてもよくて、全然

苛立つことをしない。)

- (16) 她被评为先进工作者, 并且出席了先进生产者经验交流会。(彼女は模範労働者に選ばれ、しかも模範労働者経験交流会に出席した。)
- (17) 她演戏很投入。(彼女は演技に夢中だ。)

こうした用例から“她”は美しく、親切的な性格、というイメージの人物像が窺える。さらに、女性の声や容姿に言及したものが多くみられ、特に、女性の役者としての演技を題材としたものも多い。積極的に評価される女性モデルである“她”の活躍する場の狭さを感じられる。

次に、「低く評価された消極的な女性像」の163例について、どんなものについて言及しているのか見てみよう。(表6を参照)

表6. 低く評価された消極的な女性像の“她”の用例の意味類別

感情	容姿	性格	病弱	貪欲	愚か	セクシー	計
66例	31例	26例	25例	7例	5例	3例	163

下記(18)の“哭”(泣く)、(19)の“泪”(涙)、(20)の“害怕”(怖い)などのようなマイナス的な感情に言及するものが一番多く66例に上った。

- (18) 她向大伙哭诉自己的不幸遭遇。(彼女は泣きながらみんなに自分の不幸な境遇を訴える。)
- (19) 她越说越动情, 泪水哗哗直流。(彼女は話せば話すほど感情的となり、涙を雨のようにざあざあと流して泣いた。)
- (20) 她走在光溜溜的冰上有点儿害怕。(彼女はつるつるの氷の上を歩き、ちょっと怖くなった。)

次に、(21) のように“打扮”（身なり）や (22) のように“穿戴”（服）に言及し、不快感を批判するものも多かった。

- (21) 她这身打扮土不土, 洋不洋, 怪模怪样的。(彼女の身なりは野暮ったくもなく、ハイカラでもなく、グロテスクだ。)
- (22) 她这身大红大绿的穿戴, 显得特别刺眼。(彼女のけばけばしい服は特に目ざわりに見える。)

また、(23) “多嘴”（口出し）、(24) “碎嘴子”（口数が多い）などのように、饒舌で口達者な人を揶揄するような表現の例文や、(25) “撒赖”（わざとごねる）、(26) “挑剔”（あらさがしをする）、(27) “显摆”（見せびらかす）のように、明らかに消極的でマイナスのイメージをもつ言葉の例文にも“她”が使われることが多かった。

- (23) 老秦瞪了她一眼, 嫌她多嘴。(秦さんは彼女を睨みつけ、彼女の差し出口を不快に感じている。)
- (24) 她有点儿碎嘴子, 说起话来没完没了。(彼女は少し口数が多い、話し出すと止まらない。)
- (25) 她又是哭, 又是闹, 躺在地上撒赖。(彼女は泣いたり、騒いだり、地面に倒れたりしてわざとごねる。)
- (26) 她由于过分挑剔, 跟谁也合不来。(彼女はあらさがしをし過ぎるため、誰ともうまくいかない。)
- (27) 她就爱在人前显摆自己。(彼女は人前で自分を見せびらかすが多い。)

さらに、(28) のように“她”を病弱とする例文も多数あった。もっとも、

(29) のように“她”と性的魅力を結びつけた例文もあった。

(28) 她从小多病，身子单薄。(彼女は幼い頃から病気がちで体がひ弱い。)

(29) 她很有性感。(彼女はとてもセクシーだ。)

このように“她”はいかにも感情的で、泣き虫で、ひ弱く、臆病であるというマイナスのイメージの人物像を描くものとなっている。さらに、例文に使われた“她”は「饒舌で口達者で、ひねくれたりするなど性格が悪い」というステレオタイプのなものも多い。つまり、この辞書の中では“她”はマイナスに評価されたり、批判されたりする女性像が描かれているのである。

女性の第三人称である“她”は肯定的な例文にも用いられてはいた。しかし、表5と表6を比較してみるとわかるように、「肯定的な女性像」も「否定的な女性像」も、「容姿」、「性格」といった観点に偏っていることも明らかとなった。

4.5 対照的に描かれた男性像と女性像の具体例

最後に、“他”および“她”を同時に用いた例文の中で、「男性」および「女性」がどのように描かれているのか具体的な用例を紹介する。

i) 「強い男」⇔「弱い女」

(30) 初上讲台，她有点儿犯憊。(初めて教壇に立ち、彼女はすこし臆病になっている。)

(31) 不管在什么场合，他从没犯过憊。(どんな場合であろうと、彼は臆病風に吹かれたことがない。)

上記の二例は、「犯憊」（臆病）という見出し語の用例として載せられていたものである。非常に面白いのは、一方は“他”、もう一方は“她”を使って二つの例文が配置されていたことである。辞書編集者側なりの配慮であると思われるが、“他”は「臆病風に吹かれたことがない」という強い男性像であるのに、“她”では「臆病になっている」という対照的な弱い女性像が描かれている。

本来、男性も女性も生身の人間であれば、「犯憊」（臆病）という生理的な現象が起こる。そこで、二つの例文の中の“他”と“她”を置き換えても差し支えないはずである。しかし、上記の例文では、“他”は男性だから臆病でない強い者、“她”は女性だから臆病な弱い者というイメージが結びつけられている。ここには、古来の“他”＝強い者、“她”＝弱い者、という対照的な描き方が男性優位の図式として浮かびあがってくる。これは辞書編纂者の持つ、ことばの上での性差別意識が期せずして現れてきたものであると思われる。

ii) 男は「仕事」、女は「容姿」

- (32) 十年没见了，她还那么年轻。（十年も会っていなかったが、彼女は相変わらずまだ若々しい。）
- (33) 半夜了，他还在工作。（夜中になっても、彼はまだ仕事をしている。）

(32)と(33)は、「还」(まだ)という見出し語の用例として、“他”と“她”を使った例文である。“他”では「まだ仕事をしている」のに、“她”では「まだ若々しい」とされている。ここでも“他”と“她”を置き換えても文法的には差し支えないが、“他”は男性だから「仕事」について述べ、“她”は女性だから「容姿」の若さについて述べるという対照的な人物

像の描き方となっているわけである。

下記の例文も同様である。

(34) 她一径在微笑。(彼女はずっと微笑んでいる。)

(35) 他一径是做教师的。(彼はずっと教員をしている。)

「一径」(ずっと)という見出し語の用例であるが、“他”では「ずっと教員をしている」一方、“她”では「ずっと微笑んでいる」となっている。ここでも、“他”は男性だから「教員」という職業・キャリアの面で、“她”は女性だから「微笑」という容姿の面で評価するという対照的な描き方となっている。

iii) 男は「知能」、女は「年齢」

「实际上」(実は)という見出し語の用例でも、同様に対照的な“他”と“她”の例文が見られた。

(36) 他说听懂了, 实际上并没有懂得。(彼は分かったと言ったが、実は分かっていない。)

(37) 她看起来不过二十四五岁, 实际上已经三十出头了。(彼女は二十四五歳に見えるが、実は既に三十歳を過ぎていた。)

“他”では「実は分かっていない」、 “她”では「実は三十歳を過ぎている」と、どちらも消極的人物像として描かれているが、“他”は「知能」について、“她”は「年齢」について言及したものである。このように、評価軸が同じ場合でも、男女で評価基準が違ってくる。このように、

下記の例文も同様である。

- (38) 当年她参军时不过十七岁。(入隊当時彼女はただ十七歳だった。)
(39) 他不过念错一个字罢了。(彼はただ一字読み間違えた。)

上記と同様の用例文は他にも10組ほどあった。例文の中の“他”と“她”に対する対照的な描写から男性と女性に対する評価基準の違いが見られ、ことばに潜む固定観念、ステレオタイプのものが見てとれる。即ち、“他”は「仕事」や「知能」で評価する一方、“她”は「容姿」や「年齢」で評価するのである。特に意識的に差別しようとして作られたのではないだろうが、だからこそ、女性差別意識が反映されている言語事実を認めないわけにはいかなくなる。

iv) 男のみを高く評価

最後に、以下の「不论」(どんな～であろうと)という見出し語の例文を見てみよう。

- (40) 不论困难有多大, 他都不气馁。(困難がどんな大きいものであろうと、彼は全然落胆しない。)
他不论考虑什么问题, 总是把集体利益放在第一位。(彼はどんな問題を検討しても、いつも集団利益を第一に置く。)
不论是语文, 数学, 外语, 他的成绩都相当好。(国語、数学、外国語にかかわらず、彼の成績はすべてかなり良い。)

登場したのは“他”のみである。しかも、全部“他”が高く評価されるものである。文法の面では、“他”を“她”に置き換えても見出し語の語釈および典型的な用法を示すのに支障がないはずであるが、やはり、“他” = 強い者という男性優位の図式が例文に潜んでいるのである。

5. おわりに—本研究の意義と今後の課題

以上、第三人称“他”と“她”の辞書の例文を通して、現代中国語の言語使用実態で見られる男性像と女性像の違いを考察した。その結果、中国語の辞書の中に男性と女性の人物像に大きな開きがあることが分かった。今回の分析の対象となった辞書の例文は、特に差別しようとして作られたものではなく、何気なく無意識的に作られたものであろうと考えられる。しかし、その無意識の例文を眺めてみると、“他”＝強い者、“她”＝弱い者、という男性優位の図式がハッキリと読み取れ、女性差別意識が反映されている言語事実を認めないわけにはいかなくなる。

一般的には、辞書の中に載せた用例は、読者に見出し語の標準的な語釈・語法を示すと同時に、社会一般で規範的な意識も反映されている。表面的には目立つ差異があまり存在しないと考えられた中国語においても、その言語使用実態には明らかに性差別が存在し、それが古くから続いてきた男性中心の中国社会における性差別そのものを映し出していると言える。今後、言語使用実態の現状記述のみならず、なぜそうなのかというところまで解釈を掘り下げる分析が必要であると思う。

本研究では、中国社会の中で男性と女性がどう評価されているのかが辞書の例文に如実に現れていることが確認できた。おそらく無意識に作られたのであろう用例の中で、“她”を「饒舌で口達者で、性格が悪い」という型にはめてしまいがちなのである。こうした例文が描く女性は明らかに否定的に評価されるものである。一方で、男性の代名詞“他”の例文で描かれる人物像は強く、積極的で望ましいものである。

このように辞書の例文の分析からも、中国社会が男女の役割をどう期待してきたかがよく分かる。これも広い意味で中国語とジェンダーの問題として位置づけることができよう。そして、中国語とジェンダーの問題は単に言葉遣いの問題だと済ますわけにはいかない。その言葉の使用

意識こそ問わねばならない。今後の重要な課題としたい。

冒頭に述べたように、第三人称代名詞に性別による使い分けがなされるのは中国語だけではない。日本語にも「彼」、「彼女」という使い分けがあり、英語やフランス語にも「he/she」、「il/elle」という使い分けがなされている。それでは、日本語や英語などでも辞書の例文にこれらの第三人称が用いられる際に性による違いが見られるのだろうか？

遠藤（1984）は『広辞苑』（第三版）を対象に調査し、用例に現れた「彼」は44例、「彼女」は5例あったと報告した。量では、「彼」は「彼女」の約9倍、また、質としては、「彼」を用いた用例では、「彼がひときわひかって見える」「彼の政治手腕を買う」など、「彼」は高く評価された人物像であるが、「彼女」を用いた用例では、「彼女にすっかりまいている」などのように、男性の対象物としての女性像である。（遠藤1984:13）。遠藤の調査対象は30年前の1983年に出版された『広辞苑』である。大幅に改定された『広辞苑』（第六版）はどう変化したのか検証する必要があるだろう。

言語使用における性差別の解消に積極的に取り組んできている英語圏社会では、既に男女の性役割を暗示するような表現の言い換えが進められてきた。例えば、会議の議長は従来chairmanであったが、「議長は男性」という暗黙の前提となりかねないと考え、より中性的なchairpersonと言い換えられ、最近では単にchairとされることが多くなった。逆に、女性の役割との固定化が危惧される用語も中性的なものに言い換えられた。例えば、stewardessはflight attendantになった。さらには、カナダのバンクーバー市教育委員会では、ジェンダーフリーをさらに進めるために、第三人称代名詞のhe/sheの使用を止めて、男女ともにxeとする提案をしたという（Robinson 2014）。こうしたジェンダーフリーが先行している英語の辞書では、例文についても性による偏りがないような配慮がな

されている可能性がある。今後は、英語や日本語の辞書における例文について、ジェンダーフリーがどの程度実現されているのかの検証も必要となるだろう。

最後に、本稿は辞書編纂者（用例文の作成者）を批判するという意図で書いたものではないことをここに明記しておきたい。ただ、辞書の例文に登場した“他”と“她”にみられる現代中国語の中の男性像・女性像が中国社会の一般的な意識の反映であるとするれば、従来からの“男尊女卑”の性差別意識がまだまだ人々の意識の奥に根強く存在しているという事実を認めないわけにはいかない。中国では“男女平等”、“妇女能顶半边天”（女性は天の半分を支えている）が唱えられ続けてきた。しかし、言語使用の実態には、まだまだ根強い性差別意識が潜んでいる。本稿が、現代中国語の性差別に対する意識改革の一助になることを期待するとともに、さらに言語意識の研究を進めていきたいと思う。

調査資料

《現代汉语词典》（第5版）、商務印書館、2007年出版。

参考文献

- 遠藤織枝（1984）「国語辞書研究－女のみでみた『広辞苑』」『ことば』5号pp.1-19. 現代日本語研究会
- 遠藤織枝編（2001）『女とことば－女は変わったか 日本語は変わったか』明石書店
- 壽岳章子（1979）『日本語と女』岩波書店
- 前山加奈子（2004）「中国語の女性三人称にみるフェミニズム／ジェンダー」『駿河台大学論叢』28号pp.144-148. 駿河台大学
- 任 利（2008）「現代中国語の漢字に潜むジェンダー」『ことば』29号

pp.83-91. 現代日本語研究会

任 利 (2009) 『「女ことば」は女が使うのかしら? - ことばにみる性差の様相』 ひつじ書房

任 利 (2010) 「現代中国語とジェンダー」『世界をつなぐことば』(遠藤織枝他編) pp.199-216. 三元社

Robinson, Mathhew (2014) Vancouver school board approves new policy addressing transgender students. *The Vancouver Sun*, June 17, 2014.

清水賢一郎 (1998) 「『她』字争論 - 中国における女性三人称代名詞〈発見〉をめぐって -」『中国女性史研究』8号pp.35-36. 中国女性史研究会